

高温に伴う農作物等の管理対策

令和 7 年 6 月 20 日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が 6 月 19 日に発表した高温に関する早期天候情報(北陸地方)では、6 月 25 日頃からかなりの高温が予想されています(5 日間平均気温平年差+2.2℃)。また、同日発表の 1 か月予報(6/21~7/20)では、向こう 1 か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があるとしています。

ついては、以下の管理対策を参考にして、農作物等の管理に十分留意してください。

併せて、熱中症予防のため、作業中はこまめに休憩をとり、定期的に水分や塩分を補給しましょう。

1 水稲

- (1) 高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを行うとともに、タテ溝とヨコ溝の接続、溝と水口や水尻との接続を点検・補修しておく。
- (2) 過度な中干しで土が乾き過ぎると根を傷めるので、大きなヒビが入る前に終了し、飽水管理に移行する。

2 野菜

- (1) 施設野菜(トマト、きゅうり等)
 - ア 하우스内の急激な温度上昇に注意し、こまめに換気を行う。必要に応じて遮光・遮熱資材を活用し温度上昇を抑制する。また、循環扇等を利用し施設内の温度・湿度むらを少なくする。
 - イ しおれが発生しないよう、必要に応じてかん水回数を増やす。
 - ウ 着果負担が生じているほ場では、ガク枯れや葉先枯れが発生し、その枯れた部分から灰色かび病などの病害が発生しやすくなるため、換気により適切に温度・湿度を管理する。病害が発生した場合は、罹病部位の除去を行い、その後防除する。
- (2) 露地野菜
 - ア 高温と曇雨天や多湿により病害が発生しやすくなるため、ほ場をこまめに観察し、適切な薬剤散布に努める。なお、高温時の薬剤散布は薬害の恐れがあるので、できるだけ気温の低い時間帯に散布する。
 - イ すいかやメロンなどのトンネル栽培では、ビニールのすそを大きく開けたり、換気穴を増やすなど、急激な温度上昇を抑える。
 - ウ ねぎは、高温時に土寄せしない。
 - エ 収穫後のたまねぎは、乾燥中の高温多湿による腐敗を防止するため通風等により温湿度を下げる。

3 花き

(1) 球根類

ア ユリの球根養成ほ場では、高温多湿条件で葉枯病等の病害が発生しやすいため、ほ場をよく観察し、適切な防除に努める。

(2) 露地切り花類

ア 高温多湿条件で灰色かび病等の病害が発生しやすいため、ほ場をよく観察し、適切な防除に努める。

イ 抑制ユリ切り花栽培では、植付け前に芽伸ばし・順化处理を十分に行うとともに、植付け後は地温・気温低下を目的に敷わらや適切な遮光管理を行う。

(3) 施設切り花・鉢花類

ア 高温多湿条件で灰色かび病等の病害が発生しやすいため、ほ場をよく観察し、適切な防除に努める。

イ 高温多湿・日照不足による軟弱徒長を防ぐため、天候に応じた適切な遮光管理やかん水管理に努める。

ウ オリエンタル系ユリ切り花では、高温期の採花において出荷前の予冷温度が低すぎると花しみ障害が発生しやすいので、予冷温度は10℃程度で行う。

4 畜産

(1) 気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を行う。特に、換気扇、送風機は支障なく稼動するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検、電気系統の具合もチェックする（掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする）。

(2) 柵やネット等で野生鳥獣の侵入防止を図りつつ、開放畜舎では通風をよくするため、開口部をできるだけ開放し、さらに空気の流れを妨げるものを除去する。

(3) 搾乳牛は畜舎内の温度が20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。

(4) 家畜の観察を励行し、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。

(5) 良質な飼料給与により食欲低下を防止する。また、高温時のミネラル、ビタミン及び重曹の給与は効果があるので、家畜への慣らし給与を始める。

5 きのこと

(1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度管理に努める。

(2) 換気をする場合は、害菌・害虫の侵入防止対策に努める。

(3) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。

(4) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。

(5) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。

(6) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。

(7) 極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応する。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

↑ 予防のポイント*＊

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より